

令和4年8月31日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：令和4年8月31日 19時から21時

場所：安芸高田市役所 第2庁舎2階 会議室221

出席者：上水流委員長、佐田尾委員、牛来委員（オンライン）、本多委員、福岡委員、久保委員、
中間委員、猪掛委員、永井委員

事務局：戸田係長、旭

作成者：旭

事務局

時間になりましたので、ただ今から、「安芸高田市 高校と地域の連携強化戦略会議」をはじめさせていただきます。

議事までの進行を、政策企画課の戸田がつとめさせていただきます。

初めに上水流委員長に挨拶をお願いします。

上水流委員長

今回アンケートの結果が出て、いろんな意味でちょっと考えさせられるデータが出ている。忌憚のないご意見、出していただいて、高校の魅力化っていうところで有意義な議論ができればというふうに思っている。

活発なご意見をいただければと思う。

事務局

では、次にお手元の方にお配りしている、資料のご確認をお願いしたい。

まず、会議の次第を一番上に作らせてもらっている。そして、アンケートの集計結果として、資料1、資料2、資料3と右肩につけさせてもらっている。

そして、資料4として日程調整表ということでカレンダーの様式になったものをつけさせてもらっている。そして、前回の会議の議事録を資料としてつけさせてもらっている。

あわせて、吉田高校と安芸高田市の方での取り組み、ふるさと納税のチラシというのを置かせてもらっている。

それでは、ここから議事に入りたいと思う。ここからの進行は上水流委員長にお願いをしたいと思う。

上水流委員長

それでは早速だが、議事に従って、進行を進めて参りたいと思う。それでは（1）アンケート集約結果について事務局からご説明をお願いいたします。

（1）アンケート結果集約について

事務局

アンケートを実施した目的：

- ・主役である生徒の高校に対する気持ちやニーズ、抱える課題などの現状把握
- ・アンケートを毎年実施することで、高校と地域の連携の取組による指標値の変化を確認していく
- ・アンケート結果から、今後の高校の魅力化の工夫・改善につなげていく

アンケート結果について

- ・全体の回答数：吉田高校 290人 向原高校：59人 合計：349人

【吉田高校】

・問 2：あなたが住んでいる地域

→吉田高校の回答者数の全体のうち、約 8 割以上が安芸高田市在住、そのうち 6 割が吉田在住

・問 5：高校卒業後の進路希望

→3 学年の平均：進学希望：64.9%、就職希望：18.3%

・問 6：高校に対して期待していること

→「学力を身につけることができる」「学校行事に活発に取り組むことができる」「たくさんの人と出会うことができる」という順位

・問 7：高校を選んだ理由

→「自宅から近く通いやすい」という回答が、50%を超える状況。これは、吉田高校の特徴である、約 8 割の生徒が安芸高田市内から通っていることと関連性が感じられた。続いて、「学びたい、また興味・関心のある内容の学習ができる」を選んだ回答が多い。

・問 8：高校を選ぶとき、参考にした情報

→「オープンスクールや学校説明会」が最も多く、続いて「高校のホームページやパンフレット」が多い

・問 9：現在通っている高校を、兄弟・後輩にすすめたいか

→54.5%：すすめたい・どちらかといえばすすめたい

→45.5%：すすめたくない・どちらかといえばすすめたくない

・問 10：現在の学校生活で該当するものは

→「楽しいと思える授業がある」の回答が最も多く、「良い人間関係が築けている」、「ためになると思える授業がある」という結果

・問 11：大人になって実現したい夢があるか

→70%前後：あると回答→学年が上がるにつれての変化があまり見られない

・問 12：これから学びたいことや興味関心を持っていること

→アンケート回答の資料に一覧表を記載

・問 13 現在通っている高校をよりよくするために、改善してほしいこと

→「授業の充実」が最も高い回答、続いて、「通学（交通面）の改善」、「他校との交流」が多い。クロス集計より、「授業の充実」は、僅差ではあるが、1 年生より、2・3 年生の方が、充実を望む割合が高い。

・問 14 学校がある地域の方々と協働で取り組みたいこと

→「ある」と回答した生徒：6.2%

【向原高校】

・問 2：あなたが住んでいる地域

→向原高校の回答者数全体のうち、約 4 割が安芸高田市内在住で、6 割以上が安芸高田市外在住

・問 5：高校卒業後の進路希望

→3 学年の平均：進学希望：54.2%、就職希望：27.1%

・問 6：高校に期待していること

→「学力を身につけることができる」が一番高い割合で、次に、「部活動に取り組むことができる」という結果

・問 7：高校を選んだ理由

→「自宅から近く通いやすい」が約 50%、続いて、「自分の実力にあっていた」

・問 8：高校を選ぶとき、参考にした情報

→「高校のホームページやパンフレット」、「学校のオープンスクールや学校説明会」の順

・問 9：現在通っている高校を、兄弟・後輩にすすめたいか

→64.4%：すすめたい・どちらかといえばすすめたい

→35.6%：すすめたくない・どちらかといえばすすめたくない

・問 10：現在の学校生活で該当するもの

→「楽しいと思える授業がある」が 47.5%で一番高く、続いて、27%で「良い人間関係が築けている」という結果

・問 11：大人になって実現したい夢があるか

→4割：ある 6割：ない・分からない

・問 12：これから学びたい事や興味関心を持っていること

→アンケート回答の資料に一覧表を記載

・問 13：現在通っている高校をよりよくするために、改善してほしいこと

→「通学面の改善」が高く、僅差で、「授業の充実」の改善を望む声が高い

・問 14：地域の方と協働で取り組みたいこと

→「ある」と回答した生徒 10.2%。学年が上がるごとに「ある」と回答する生徒が多くなる傾向

上水流委員長

クロス集計から、性別ではあまり大きな差はなかったのかなと思う。学年別では、それぞれ傾向があるのかなと思っている。

それでは、ここからは、このアンケート結果に基づいて、皆様からご意見を頂戴したいと思っている。最終的には「会議としてどのようなことができるのか」という議論ができればいいと思っている。その前に、率直なところで、アンケート結果を見た感想等でも結構ですので、ご意見を頂戴できればと思う。

(2) アンケート結果を踏まえた連携の取組のアイデア協議

猪掛委員

問 13 の改善してほしいところ。向原高校のところで、交通面の改善が一番多いが、向原高校といえば、おもには芸備線を通われている生徒が多いのかと思うが、ここが多い理由に心当たりがあるか。とくにクロス集計を見ると、女子の割合が 40.7%の人が改善してほしいとあり、特徴的かなと思う。聞いてみたい。

中間委員

生徒と話をする中で、まず、本校の約 9 割の生徒が芸備線を利用している（三次方面、広島方面）。そう考えたときに、9 割は公共交通機関がある。改善を望む声がこんなに高いのは、どうなのかなと思った。

ただ、生徒の声をいろいろ聞いてみると、本数が少ないというのがあり、部活動も十分できない。一本伸ばせば 1 時間半後、というような状況。そういう意味で、生徒が、この交通面の改善を上げたのかなと思う。推測ではあるが。

上水流委員長

アンケートを取らせていただいたが、やはり最近私どももそうだが、大学でも、学生からアンケートをとったら、ちゃんとリプライしろと言われている。やはりこれだけいろんな意見が出ているので、会議としても、今回、回答を出さなくてもいいが、次回含めて、アンケートに対しての我々の解釈を、学生に返していかなきゃいけないのではないかな。そういうことをやっていかないと「取

られっぱなしで、どうなった」というのが一番いけない。その辺も含めながら、議論ができればと思う。

中間委員

問 13 の改善して欲しいことで、2 番目に多いのが「授業の充実」。これは今、高等学校として、学校として「授業の充実」をしていくっていうのは、第一のことだと思っている。授業の改善を一層進めていかなきゃいけないなど、改めて感じた。

そして、1 つショックというか、分かったのが問 14。

地域の方と共同してというところに対して「特にない」が約 9 割。地域の中の学校である、地域に支えられている学校であるというような思いから、教育目標にも地域と一緒にあって、何かを、生徒の資質・能力を育成するっていうようなことを、重視してこれまでやってきた。生徒の回答が、こういう数字であるのは、ショックだなと正直感じたところ。

久保校長

校長として、ちょっと自分の認識との差異があるなと思ったところは 6 ページの問 9 「高校を、後輩たちに進めたいかどうか」で、5 割ちょっと、まあ 6 割近くはあるが、すすめたくないが 45% くらいある。

吉田高校は、兄弟率が、すごく高い。同じ名前の子がいっぱいいるので、兄弟率が高く、親族率が高い。それから、親が行っていた、親の親が行っていたというところで、かなり同族的な学校でもあるので、ちょっとここは、あれって思えたところ。すすめたくないが、地域にある学校だから、通っているというふうに読み取れてしまうので、そうすると、残念だなと思う。

ただ、言い訳というか、これは 1 学期の終わりにとったもの。おそらくこれが、3 学期にとると、また数値が全然違う。例えば、3 年生でいうと進路が決まって、自己実現ができていく時期にとると、数字が肯定的になる。今、1 学期もまだきょとんとした時期だったからっていうところは全体像の中にちょっと表れているなと僕は見てる。1 年間を終えて取るのと、1 学期に取るのでは、生徒の学校への印象、教員への思いは随分違うということは、承知をしていただきたいと思う。それから、先ほど、向原高校もおっしゃられたと思う、問 13 のところだが、吉田高校の方では、通学面の改善っていうのは 2 割なので、多くはない。

もともと吉田高校では、オンデマンド型のバスを走らせてもらっていたが、ニーズ・乗客数が少ないので、打ち切ったという経緯がある。実態がどうなっているかっていうことを、実数をリサーチできていないが、保護者送迎が多くものすごい車の数が入る。とりわけ多いというのが、高宮・美土里方面からが多い。保護者の方がそれに慣れていらっしゃる。子供もそっちの方が便利だが、保護者の方には、負担はすごくかけているなと思う。

「授業の充実」のところは、学校は授業がまず軸になっている。これはこうなのかと思う。

吉田高校のところには「校則」というキーワードがいくつかある。校則については、厳しい・昔ながらであるというようなところがやっぱり算定される、耳にする。

吉田高校として、時代状況・周辺状況を見ながら、少しずつ変えているところはあるが、去年の反省では、そのことが、どういう思いでこういうふうに、生徒指導しているとか、実はこういうふうに変えたよっていうことが、しっかりアナウンスされてなかったっていう反省がある。それを今は、やっているところ。そして、さっき言いましたように、親の世代が来ている。親御さんの世代が、本当に厳しかった。そういう印象がまだまだ続いているところがあるのかなあと思う。学校の 1 つの課題としてもある。

問 14 について、吉田高校は、探求科やアグリビジネス科で地域の中での協働というような活動内容が非常に多くある。日常的には、例えば小学校・病院へ実習に行かしてもらったり、地域の方を招いて講師をお願いするなどの、営みは非常に盛んにやっている。その中で、「すでにやっているからもうない」と思っているのか、コロナで、2 年・3 年とどまってしまって、地域へ出る喜びとか、価値観っていうのが失われつつあるのか。

これをちょっと見たときに、安芸高田市としては、これに半分ぐらいあったら、50%50%ぐらいあったら、安芸高田市ってなんか可能性あるなと思えるかもしれないけど、高校生がズバッと、「ない」というこの状況。これをどう見るか。しっかりここは見えていかないといけないと思う。もうすでにやっているからなのか、逆に学校の活動、部活動でそれなりに満足しているか、もしくは、地域との繋がりや経験がなくなってきているからなのか。もしくは、安芸高田市が若い感性とマッチングできないと見切っているのか。いろいろな見立てがあると思うが、奥が深いと思う。

本多委員

問 15 について。数は少ないが、地域と関わりたいっていうのが、少数だが、見受けられるっていうことが非常に喜ばしいことかなと思う。

その反面、吉田高校の校長先生が言われたように、問 14 で取り組みたいと思っているアイデアについて、パーセンテージ的には「ない」方が多いことに関しては、コロナのこともあると思うが、実際、知らないっていうことの方が多くはないかなという見解。

各町、広島市から安芸高田市も含めて、地域で何が行われているのかっていう、そういった関わりが薄くなってきているのではないかなというのは、見受けられるかなと思った。

その中でも、新たな地域との交流ができるアイデアを書いてあることに関して、何かしらこういうことを行っていくっていうことと、あとは、生徒自身のアイデアとして学校を引っ張っていくような形を、何かフォローできる形ができればいいのかな。

学校とすればカリキュラムがある中で、先生の負担がかなり大きくなってしまふ部分もあると思う。部活動の時間を、使うってことはちょっと難しいと思うし、その学校の中でカリキュラムを入れるという形にはなるかもしれないが、何かしら、地域との関わりっていうのも、祭りに参加するとかっていうところに関して言えば、表に出てみることも、コロナでできない部分もあるかもしれないが、そういったところも、関わってみる1つの手段にはなるのかなと思う。

猪掛部長

確かにこの2年、3年、コロナで、地域の祭りが全部全滅している。そこに高校生に来てもらって、いろんなことをしてもらおう取組も、ちらほらあったわけだが、それができてないっていうのは、こういったところにあられてくるのかなあと思う。

佐田尾委員

向原高校の、質問5の高校卒業後の進路希望で、1年・2年・3年とで、特に大学の進学希望で2年生が、ばらつきが大きい気がするが、どういう事情か。

中間委員

本校の、最終的な進路決定の状況を見ると、3分の1が大学、就職が3分の1、専門学校等が3分の1。だいたい毎年そういう割合。

2年生は18人しかいない中で回答が12人しかしてない。「18」の3分の1は「6」なので、傾向としては大体一緒かなという気がしている。そう考えると1年生は少し少ないかもしれない。

中学校の方からも、向原高校に行けば、大学進学ができないというようなロコミ、噂もあったりして、大学進学実績については、本校が授業と共に上げていかないといけない大きな課題だと思う。ちょっと、これは真摯に受け止めて、大学を目指させる・より上を目指させるというような、チャレンジ精神を持たせていかないといけないと思っている。

福岡委員

問 13 の他校との交流というところが20%近くあることを新鮮に感じる。

こういうアンケートで、他校と交流したいと思う人がこんなにいるというところが、新鮮。これが、

向原高校と吉田高校の生徒同士の交流が、もっと密にあれば満足度が上がるのか、もっと広く、ほかの世界がみたいというか、他の文化がみたいみたいなことで言っているのかどうなのかなと興味がある。

問 15 の「どんなことがしたいですか」というところにアイデアを書き込んでいるが、吉田高校の中に「もっと地域の人と話してみたい、いま安芸高田市で問題になっていることを話したい」という声があるのは、いいなと思った。確かに実際に自分が通っている地域の人が、今話題になっていることをどう思っているのか聞いてみたいと思うし、そこから、自分がこの地域に、アクセスするとしたら、どんなポイントがあるのか、どう地域と関われるか、考える入口になると思う。

個人的には留学したいというのがあったと思うが、留学して欲しいなと思った。なにか支援できることが、学校の中だけでなく、地域の中に、留学先の紹介とか、国際交流ができる場面の紹介とか、ある人はたくさんいると思う。そういうところに高校生が、関わりたい人が関われるような、パイプがあればいいのにと考えた。

あとは、先ほど交通事情のこと。いま、安芸高田市の国際交流協会で、多文化共生リーダー養成講座というのを高校生対象にやると、大体、土日になると、送迎が難しいので参加できないということが結構ある。オンラインだったら参加できるが、土日に保護者に頼んで、その場所に送ってもらうのはできない、家にいるしかない。イベントがあっても参加しにくいということが何度かあった。高校だけじゃなくて、自分の家からダイレクトに通うのは、そういう場面でも響くなと感じた。あと「空き家の活用」って出ていて、面白いなと思った。地域課題になっていることに、高校生がダイレクトにアクセスできる活動として「空き家」にどうかわるか、すごく新しいアイデアや高校生じゃないと楽しめない活用がありそうだと思って、面白い入口だと思った。

久保委員

最後の「空き家」とか「安芸高田市の人との交流」というところについて、吉田高校は地域を考えるゼミがあるので、そこの子が意識を高く持っていて、そういうキーワードがよく出るので、こういうところを書いているのかなと思う。

他校との交流や、留学したいところは、コロナで回数が減っている。

吉田高校は、農業高校同士や、医療系・福祉系があるので、医療・福祉系の高校同士の授業交流というのをしていたのが、やはりコロナで、すべて遮断されてしまっている。

それこそ、大学に見学に行くとか、大学との共同事業とか、そういったところも、オンラインで済みますか？ ませんか？ というレベルにとどまっている。先輩たちがやってきたのにできていない。そういうのが伝わっている。

留学も同じ事情。吉田高校は、毎年のように、ニュージーランドとの姉妹校があるので、姉妹校交流をしていたが、ぱったり止まっている。本当に、行かせてやりたいなと思える逸材が何人かいるが、すごく残念。

職場の中で言っているのが「3年我慢しよう」。今年が3年目なので、来年度から何か再開できないかなという話をする。

先輩たちの活動を掲示してあったりする。それが取れない、次ができてないから。そういうのもあるかもしれない。

永井教育長

私は全体的な感想としては、自分のこととか、学校のこととか、地域のことを、高校生はよく考えているなというふうに、感心をさせていただいたというのが、全体の感想。

立場上、問 8 の高校を選ぶときに何を参考にしたかというところの、中学校の進路指導というのが、向原高校が5番目、それから吉田高校は4番目。この辺りはちょっと中学校あたりと、議論してみなければいけないなと改めて感じた。

それから、議事録が残るとということなので、なかなか発言が難しいが、以前から感じていることだ

が、やっぱり、通学の改善。特に市の北部というか、先ほど校長先生からも、保護者の送迎が多いということだったが、特に、美土里・高宮あたりは、行政がもっと地元の高校を大事にするという意味においても、通学手段の便宜を図る必要がある。もちろん、高宮・美土里だけではないが、あるなということ、改めて、常々感じていることだが、こうやって、生徒の直接の、回答を見て、感じた。

それから、最後に言わせて頂くと、向原高校が15番のところ、小・中と合同イベントをやりたいと書いてくれている。これも、地元の高校への進学を増やすためにも、これまでも、校長先生方とは、議論させていただいていることだが、小・中との児童・生徒の交流というのを今以上に、通年で考えていく必要が、結果からも、感じられるなということ、改めて感じたところ。

牛来委員

まず正直、アンケート結果にとってもショックを受けた。

特に、自分が通っている高校を、兄弟・後輩にすすめたいかというところで、「すすめたくない」の数の多さに、正直驚き、ショックを受けた。

先ほど、校長先生の話で、アンケートの取った時期が1学期で、このような意見になったのではないかという話もあったが、この後改善されるということだとしても、現状として、いまこの数字にびっくりした。

一方で、何でなんだろうっていうヒントが、少数意見の中であるかもしれないと思って、少数意見のところに注目した。その中で、特に気になったのが、「生徒の意見を聞いてもらえない」、「教師の態度が悪い」、「先生の中で連携がとれていないから言っていることが違う」とか1人ずつの意見かもしれないけれども、正直気になった。

今回の委員会は、高校全体をさらに良くしていくとか、あるいは、受験者数の数をふやす、生徒数をふやすっていうところを目的にしている。多くの人を集めるというようなプロジェクトや、戦略を立てなければいけないが、遠くを見て、多くの人に伝えようとするのであれば、同時に目の前の1人の生徒を助けられなければ、満足させられなければ、遠くからもたくさんの生徒たちに、ここに行こうという風になるのは難しい。目の前の人を幸せにできないのに、どうやって多くの人を幸せにするのか、私自身、会社をやっていく上で、考えている部分で、そういう意味でも話をさせてもらった。

じゃあ、目の前を、改善していくっていうのは先生の意識改革をするのか、生徒全員にヒアリングをして、何かしていくのかというのを最初は思ったが、一方で、夢があるという生徒の意見が思った以上にあったことに着目した。であれば、そこをすごく応援するようなプロジェクトができないかな。

全体が、それによって何か、わくわくするような生徒が増えていくとか、全体がそれによって、学校運営がよくなっていくとか。それが例えば「夢かなえるプロジェクト」なのか「夢応援プロジェクト」なのかかわからないが、生徒から夢をまず出してもらって、その中からいくつか選んで、コンテスト系にしてもいいし、これはみんなと一緒にやっ行ってこうぜとなったら、応援しながら実現するっていうのが、結構見た目にわかりやすいかなっていうのが一つのアイデア。

先ほど、「空き家」の話が出ていたが、例えば、それをやるっていうのも、夢プロジェクトの1つかもしれないし、いろんなテーマでできていくと思う。

また、さっきおっしゃいましたが、学校に期待することっていう中でも、「いじめがない」っていうこと、じゃあ「いじめ」はあるのかなって思いますし、いろんな生徒たちにそこに関わってもらえるような道筋が作れば、理想かなと思う。

上水流委員長

いろんな意見も出てきて、皆さんから他にもいろいろ、こういうことやっていいのではないかと、いうことがあろうかと思うが、少し私の方から、感じたことを述べさせてもらいたい。

私も正直に言えばちょっとこの数字を見た時には、かなり驚いたところがあった。

私が気になったところは、まず「通っている高校を進めたいか、進めたくないか」ということに関しては、吉田高校はすごく冷静な分析をされているなと思ったのが、地元の高校なので、兄弟や同族系が通っているかもしれない。この高校に行くということに対して、積極的な理由っていいのを見いだせてない可能性もあるのではないかなと思った。うちでは庄原キャンパスの数字が低いけど、それでも8割ぐらいは「進めたい」というのはある。半分というのはかなりショックを受けた数字。両校に言えることは、問13に関して言うと、「授業の充実」が言われている。そこはどう考えればいいのかというふうに思っている。「授業の充実」というところは、両方とも高い。クロス集計の中で、吉田高校は、1年生が若干低く、2年生・3年生が高い。それから、向原高校も同じような感じで、「授業」に関して言うと、母数が少ないのもあるが、1年生が15.8%、2年生が25.0%、3年生になると42.9%で、上がっている。学年が上がるごとに、不満足度が上がっていきつついうのは、やっぱり重要な課題ではないかなというふうに思っている。自分のやりたいこと・したいことと、高校の中の授業の中身が、マッチングしてないとか、そこがうまくハマってないのかなという気もしないでもない。ここはやっぱりどう考えるかというような問題があるではなかろうかと思った。

あと、実現したい夢がありますかということと言うと、ショックを受けたのは、向原高校の方が「ない・不明」が6割くらいある。吉田高校の場合は、数字はそんなに高くなく、やりたい夢があると書いてある。ただその中でもやっぱりショックなのは、3年生になっていけばある程度進路が見えてきて、1年生だったときには漠然としていて、なくてもいいけど、2年3年になった時は、こういうことをやりたいとか、あんなことをやりたいというふうに思えなきゃいけないと私自身は考える。だが、ここの数字に、大きな変化はあまりない。1年生も3年生も同じようなぐらいで、夢がないままの数字が出てきている。高校は、学年が変わるごとに、何かと自分の夢っていうもの・やりたいところが見えてくるのではないかなと思うときに、ここはどう考えればいいのかと思った。もちろん学年を追っての数字、1年生が2年生、2年生が3年生になっての数字ではないので分からないけど、1年生から3年生になる間にそこが、あまり変わらない数値っていうのはやっぱり何か考えなければならぬ。特に向原高校の場合は半分以上がそういう状況にある。自分たちが夢を描けるような状況が、作れないといけいないのではないかなっていうのが正直な私の感想。

それから、地域との接点については、私が思っていたのは「地域との関わり」っていうのは、「地域をフィールドにする」ということが大事なのかなというふうに思っている。「地域をフィールドにする」とはどういうことかという、自分のやりたいことを実験してみるとか、試してみるとか、何かしら将来に向かっての学びができるような場として使えないのかなということ。単に地域の掃除に行くとか、夏祭りに参加するとかではなく、例えば、夏祭りに参加するなら、自分はイベントを、立ち上げてやってみる。だったらその地域の夏祭りで自分たちが考えるイベントをやって、どのくらい人を集められるか。こういうことをしたら人が来るんだとか、全然受けなかったとか。そういうような、フィールドとして、地域を考えると結びつきをやっていけたらと思う。でも、今ここにきて内容が、どちらかという「大人目線」の来てくれたら嬉しいな的なところがあるが、そういうようなことができないのかなというふうに私自身は見ながら思った。

地域と高校が結びつくというのは、今の時代、当然だと思う。これはやるべきことだと思うが、やるのであれば、学生が自分のやりたいことを実験できる場所として、フィールドが使えないか、そういうような結びつけ方ができないのかというふうに思ったのが私の正直な感想。

で、その中で、じゃあ何ができるのかという話。先ほど「夢実現プロジェクト」というようなお話も出た。1つは、フィールド（地域）と結びつきということであれば、まずは学生たちが何をやりたいのか、そのやりたいことを、フィールドで、どう実験できるのかということが1点。そして、大学進学が非常に重要な意味を持つのは、両校でも一緒。そうすると、両校の進学に対して何かしら、地域がお手伝いできることはないのかという、行政がってことになるとお金の問題があるが、何かできないのかということ、考えていかなければならぬと思った。

本当に僭越ながら申し上げさせてもらうが、高校に入る段階で、この高校でこんなことをやってみたいとか、こういうことができるっていうことは、しないといけいない。そう考えたときに、向原

高校の場合は、ちょっとメッセージが弱いんじゃないのかなというふうに思った。向原高校に行ったら、こういうことが特徴的で、こういうことができるというふうな意識づけがないと、なかなか向原高校を積極的に選ぶっていうことにならないのではないのかなと正直思った。だったらそれは、向原高校として何をどうしていくのかというメッセージを、はっきり出した方がいいと思う。もちろん今、「こんな生徒を募集してます。」とかやっていると思う、どこの高校もやりなさいとなっている。やっているが、そこをもう少し尖った感じを出して、尖った感じを行政がサポートできるような体制が作ればいいのかと思う。高校の教育を、十分に知らない私が、勝手なことを申し上げようだが、この数字を見ながら、考えたことは以上。

最後に、交通問題に関して。

向原高校も吉田高校も、非常に重要な要素になっているのは間違いない。これは、我々協議会で何かできることではないが、1つは、この協議会から、安芸高田市の担当部署に対して、高校を、地域でしっかり支えていくのであれば、交通の問題に対して、何らかのリアクションを取って欲しいということはお伝えしたいと思う。それからJRに関して、実は僕は、JRは見捨てるって言っていた、いつまでもJRを充てにするなどというのが、私の最近の基本的な考え方だが、議事録とってもいいんですが。もしこういうことも含めて、今、協議会とかいろんなところがあるから、きちっと、高校を支える重要な要素にJRが少なくともなっているということは、繰り返し述べていくこと。あと、今、どうなんすかね、観光でバスとJR両方使えるってチケットが出ていますよね、あれが定期券でできないかと思っている。つまり、JRとバスとを、高校通路に関しては、やってくださいとか、乗れるもんならどっちでも乗ってくださいよっていうような、改善策を取ることに何か意味がないのかなと思っている。例えば、そういうような連携や、単に観光だけじゃなく、高校生にとっては非常に重要な足だと考えたときに、バスも、列車も乗れるような、工夫はできないのかなというふうに思う。

それも、協議会としての考え方がまとまったときには、そういうような意見を出して、とにかく高校生が使いやすいような交通体制をもう少し考えて、それを、安芸高田市がリードしながら、いろんなところに働きかけていくっていうことをやってもいいのではないかなと思った。

校長先生がおっしゃるように、保護者が送り迎え、楽は楽だが、以前この会議でおっしゃられたように、親御さんに対して、申し訳ないという気持ちは高校生持つ。そういう感情を持って高校に通わせるってのというのは、どうなんだろうかっていうのが僕の正直な感想。

あと、向原高校はさきほど、なんで女子がということだったが、男子の場合は、よく自転車通学とかしているのか。変な話だが、なんで女子なのかなと僕も考える。

中間委員

自転車通学はほんと少ない方。地元、向原町内から来ている生徒が少ないので。

上水流委員長

はい、わかりました。気になったところだったので。

いろいろ勝手なことを申し上げたが、そういうところを感じた。

これからは、いろんな意味で、協議会として、どんなことができるのか・どんなことが提案できるのかってことを絞りながら、またご自由に、ご意見を仰っていただければありがたいなと思う。

福岡委員

夢のことがすごく気になった。夢があるって書いてある人の言葉を読むと、具体的な職業がある場合と、どんな状態になりたいか、どんな人になりたいかみたいなきとがある。高校生の時に、地域と連携するっていう会議だと考えたときに、地域の人たちと交流する中で、高校生が得る夢についての感覚って、こういう職業っていうよりも、こういう大人になりたいとか、こういう働き方がしてみたいとか、そういったところにピンと来る人もいるのではないかな感じた。地域でできるこ

とで言えば、多様な働き方をしている人が探せばたくさんいるので、そういう人達の仕事に1日だけ密着してみるとか、何かそういう人達の仕事観や生き方に対する価値感とか、何かそういったことを含めて、人として、高校生と交流できる機会を、1日でも持つっていう事を喜んでやってくれる人は多いだろうし、私自身もやってみたい。ただ見学に行くとか、ただレクチャーを受けるとかではなく、その地域の人と、人間的な会話をしながら、価値感について育むということをして、「その地域で育てられたなあ」と思い、卒業を迎える、そういう意味での夢を応援する地域になれたらいいなと思った。そんなことをしてみたい。

上水流委員長

そうですね。

ちょっと面白いなと思ったのが、向原でしたっけ、ジビエで料理店を開いた人がいないか。

鹿でやっている。あれは非常に面白くて、個人的には食べに行きたいが。

ああいう、安芸高田っていう場所で楽しくいろんなことを考えて、本当に地域に対しての可能性も広げるし、自分たちのやりたいことの思いも広げていく。何かそういうような出会いの場がつけられることも大事だろうなと思っている。

猪掛委員

先ほどの改善の交通のところ。担当部署はうち。

実は、いろんな課題があるので、今年、安芸高田市の交通計画というのを見直す作業を今やっている。

通学に関して言えば、小学校は、今、統合しているので、ここはスクールバスが運行している。それと路線バスを組み合わせ、通学。中学校は、自転車が多いが、それでも、最近は保護者の送迎というのが増えてきていると思う。

高校のところは、今回こういうふうなアンケート結果も出ている。どういうふうになったらいいのかというところは、丁寧に聞いていく必要があるのかなと思う。

向原に関して言ったときに、例えば向原駅から、学校までは歩きですかね皆さん。

そこのところが、「遠い」とかっていうような思いがあるのか、どうなのかというのもちょっとあった。いろんな状態を丁寧に、調べていくことによって、少しでも改善に繋がらないかなとは思っている。ぜひ、また、そういう機会も持たせていただければと思う。

上水流委員長

このアンケートを毎年とっていくというときに、交通っていうのは大事な指標。この指標が悪化していくってことは、こういうことを言うとあれだが、安芸高田市の行政としては間違っているって言ったデータにもなっていく恐ろしい数字。

今、部長さんの方から心強い言葉もいただいたので、そういうことも、今度は高校生にリプライしたいと思う。ぜひ交通に関しては、もう少し柔軟に考えられるようなアイデアを出していければと思う。これはちょっとうちの協議会でできることではないと思うが、働きかけというレベルで。

福岡委員

今の交通の話で見ると、よく向原駅では、電車を待ってる高校生を目にする。さっき女子生徒の方の数字が高いというのは、熱いとか、寒いとか、そういうことなのか、深刻だなと思って駅で見てたりしている。駅での過ごし方、例えば、交通に間に合わなかったとしても、駅と交通機関に乗るまでの間に自分のためになるような時間の過ごし方ができるような環境があれば、待ち時間や本数が少ないっていうところを、ポジティブに転換できる仕掛けができるんじゃないのかなと思う。

お店に、お菓子買いに行って、お友達としゃべるって、高校生が楽しみにしてる時間なんだろうなと思いつつ、畑の授業で、「何が不満なの？」と聞くと、「マクドナルドがない」と答えたり、マ

クドナルドが欲しいというか、もうちょっといい環境でおしゃべりしたいなとかいうことだと思うけど。

そういう、人と繋がりとか学校じゃない場でもっと有意義な時間を過ごしたいなっていう気持ちに、答えられるような、地域の支え方があるんじゃないのかなという気持ち。交通機関のみならず、待ち時間や、不便さの中に、何かできることはないかなということ。

上水流委員長

ルールがあるといい。そういうのがあって、食べる場所もあって、熱くなくて、寒くなくて。

本多委員

私は向原高校だった。高宮町から向原まで通うのに、交通の便で言えば、当時はバスと JR。部活をしていたらオートバイの通学が OK だったので、比較的オートバイだったが、事件・事故の観点からいうと、あまり推奨できるものではないというのは事実だと思うが、そういった子供がたくさんいたかなと思う。

あと、当時の駅は、ポテトとか食べれるような場所があったので、一部の方々が、よくたむろしていた。今、向原駅は、サテライトオフィスがあったりするので、そういったところの利活用というところが、新たな高校生との関わり方、高校生と地域の関わりという形で、一つの場所としていいと思う。地域っていうところが関わっているんで、駅周辺の商店さんを、どういった形で認知していただいて、話した後に、高校生の受入であったり、買い食いがいけないって言われるとそれまでだが。何かしらコミュニケーションをとるっていうところが、必要かなと。

あとは、駅から高校に行くまでが、今でこそ比較的歩道整備はできたとは思いますが、やはり道が狭かったりするところもあったりする。非常に車と人の行き来が、ちょっと危険な部分もあるのかなというのはいつのポイントとしてある。

上水流委員長

買い食いはだめなのか。

本多委員

僕はいけないとは思ってなかった。あと今は、アルバイトが駄目とか、アルバイトを推奨するわけではないが、本業として、学生はやっぱり勉強しなきゃいけないっていうのは事実として、基本方針としてあって、社会として働くところがあまりない。社会性を知ることに関しては、アルバイトや体験であったり、必要な部分。個人的な見解だが。自由にした方がいいとは思わないが、ある程度の地域との関わり方を考えると、知る必要あるかなと思う。

いろんな方々とお会いするっていう、一つの経験としては、いいと思う。

上水流委員長

今、もう高校は、バイク通学は駄目なのか。

中間委員

今やってるとこは、世羅がやっているくらい。

私の初任校の高宮高校は、バイク通学は OK だった。

久保委員

徐々に、バイク通学はなくなっている。

1 年前に市長と吉高生のセッションする機会があった。その時に、市長から「この町に何か欲しい？」という質問があった。レジャー施設とかの回答があった。

とある生徒の質問の中に「なぜこの町には、ウォンツとか、ひまわり薬局とか、ドラッグストアが多くてマックがないんですか？」と。そりゃ考えればわかるでしょと思うが、非常に素直な声だなと思った。もし、仮にマックやモスができて、おそらく学校の先生たちは、帰りに絶対立ち寄るなという。

にしても、週末に、そういうたまり場・しゃべり場がないところはある。それは今の日本の現代社会、どこも50以上をターゲットにしたマーケティングになっている。今の、若者たち・子供たちを中心とした社会が見えてないなという、我々の反省点もあるが。

だから、若者のために、生徒たちのために「作って」と言ったときには、誰かがちゃんと見守る仕組みってというのが、一方でないといけない。

もう1つは、向原高校はやっぱり芸備線は生命線、代替ルートがない。

同じ路線をバスが並走しているわけではない。さっきの往復チケットは駄目だろう。芸備線しかない。

本当によく止まるし、遅れるし、そこに対するストレスはやっぱり、生徒の中にあるだろうと思う。コロナで通えない、芸備線が鹿の衝突で帰れないというのはよくある。昔に比べたら、動物との衝突というのもすごく増えた。

吉田高校は、芸備線・JRを使って通っているのは、把握できているのは1人。その子がどこから通っているかという高陽、深川のあたりから。向原高校は、高陽からくる割合が多いが、吉田高校はそう多くはない。3人ぐらい。1人は、高陽の団地を駆け下りて、自転車で八木の方へ出て、八木から広電バス1本でくる。もう1人は、女の子で高陽の団地から文教女子、可部に向けて広交バスに乗って、可部から広電バスに乗り換える。もう1人はJRで吉田口に来て、それから備北交通。吉田口でJRを降りて、50分待つ、女の子1人で。その子と話した時に「よく来てくれているな」って。

吉田口はいま何もない。大きなロータリーはあるけど、何もない。今時だから、きっとケータイは持っているだろうから、連絡手段はあるにしても、もしバスが遅れたということがあれば、その子は50分間以上待っている。その1人のために、何かいろんなものを変えようとは言わないが、芸備線の作りそのものが、広島に向けて、もしくは三次に向けてのダイヤの作り。向原は真ん中なので、そこに合わせたダイヤは成りえない。そこはJRの作り方の難しさ。交通は、安芸高田にとっては大きな問題だと思う。広島に出る、三次に出る、3本のパイプがしっかりあるのを、どう留めるか。どうネットワークを作れるかというのが大きな課題だと思う。高速道路、54号、広電バス、JR、それだけに任せておいてしまうとストロー現象。その中で、安芸高田市がどう楔を打つか。

1つは道の駅ができてるので、54号の流れの中で、新たなこういう施設や、留まりができています。安芸高田市は産業にしても、今の人口をとどめるにしても、そこらはネックな材料になる。それらが、生徒募集や、高校の存続につながる。

上水流委員長

交通に関しては、やっぱり死活問題であることは間違いない。

あと先ほど出た意見で「夢を応援するプロジェクト」っていうのが出たが、それについてはどうか。具体的にできるようなことなど。

久保委員

例えば、安芸高田市から中学生の半分は出ている。今は、向原にしても、吉田にしても、半分出ているなら、出ているのを取り返したい。吸い上げたい。さきの3本のツテを使って。その時に、高校の魅力を高めるといようなのは、一つの言い方ではある。

逆に市内から来てくれている子に、例えば、交通費の負担ではないが、そういう逆の発想もあってもよかった。市内のネットワークを充実させるのもそうだが、市外から来てくれる・選んでくれる人への何か、他の自治体にもそういうことはあるだろう。

上水流委員長

今、世羅町が、通勤手当の補助をやっていると思う、確か。
市から進んで通うことに対しての補助をやっていたような気がする。今の校長先生の話とは逆になるが。

あとはやっぱり、中身として何か、応援するプロジェクトじゃないが、学生・高校生が学ぶこと、自分の夢を叶えていくということに対して、時間とお金と人を、割く事のできるようなことってというのが、そういう余裕が会議の中にあるかってことでもあるが、そういう可能性は、いかがか。さっき言った地域をフィールドにというの、学校の先生にやって欲しいというより、むしろ地域と学校を結びつけるような、人手がいるんだろうなと思う。高校生の話を聞いて、じゃあそれだったらこういうところでやってみたらとか、こういう地域紹介できるよ、こういうところで実験やってみたらとか。そこを活用する費用を出したり、そういう人を充てるとかっていうことも必要だろうなと思ったりする。

牛来委員は、例えば具体的に、夢応援するプロジェクトでこんなような形があったらいいなというのをもう少し具体的に考えていらっしゃるところがあったのか。

牛来委員

ごめんなさい、あんまり詳細までは考えてない。ただ、それを本当に実現させるためには、今、上水流先生もおっしゃったように、プロがいる。専門家だったりプロだったり、プロジェクトを、一緒に導いて、いろんな情報を与えたり、実現するために必要なものを集めてくれる人は必要だと思う。もう1つ、お伝えし忘れたなと思っていてことを言ってもいいか。

夢を実現する、そこに関わってくることだが、もちろん生徒には、卒業したあと地域に残って欲しいし、そのための委員会でもあると思う。残って欲しいっていう、その言葉、地域と連携しながらやっていくプロジェクトとしてはいいとしても、ただ生徒たちには、どんどん世界に羽ばたけということの方が有効なんじゃないかなと思う。要は来た人を囲い込むことも大事だが、まず来てもらわないといけないということで言うと、ここに来たら夢を応援するよ、別にここで、広島や、安芸高田市で叶えなくてもいい、どんどん全国・世界に出ていけみたいなことを言うそのぐらいのインパクト、尖ったことが必要じゃないかっていうところの、1つになるかもしれない。

それで1つ質問したいのが、OB・OGの中に、世界じゃなくても、全国で活躍していて、高校生たちが憧れるような先輩とか、卒業生の中でいたりするか。

要は地域との連携が必要なのでもちろん地域で活躍されている先輩たちとの連携とかを具体的には、実際にやっていくとしても「え、こんな人にも会えるんだ」とか「こんな人がうちから出てるんだ」みたいな人に会えたり。例えば、学校の卒業生じゃなくても、生徒たちのアンケートの夢に出ていた、デザイナーだったり、カフェやりたいみたいなことだったりそういったところの、誰もが知っているテレビで見るような人だったり、シェフだったら、三ツ星シェフに会えるとか、ファッションデザイナーだったり、そんな一流の人に会えるみたいなことをプロジェクトの中でやってみたらいいのかなというふうに思う。

だからちょっと逆説ってさっきおっしゃって、市内からの通学支援、それもすごく賛成ですし、ちょっと、尖ったことがやりたいと思う。

上水流委員長

ありがとうございます。

この会議に関して言うと市長から、私が聞いたときに、別にこの市に残るってことを考えなくてもいいですよっていう、いい高校生活を送らせて、いつか地域のことに思いをはせてくれて、それをきっかけに戻ってきてくれればよしだし、戻ってこなくてもよしだしということなので、本当に世界に羽ばたくってことは大切だと思う。今、学校ではようこそ先輩じゃないがそういうのって授業としてされているのか。

久保委員

地域の方で言うと、さっき言ったようにかなりいろんな多種多彩な方がおられ、お話を聞く会はあ
る。吉田高校に限ったことじゃない。

上水流委員長

僕は日彰館高校にも関わっているが、日彰館高校ではようこそ先輩シリーズは、年に3回か4回あ
って、割と全国的に活躍している先輩を呼んだり、県内だと、平田観光農園の方が日彰館の卒業生
なので、呼んでみたりとか、いろんなことをされている。こういう人たちが来るんだみたいな話で
もいいと思うし、こういう話が聞けるんだみたいな形、そういうようなものもあるのかなと思う。

本多委員

それだったら、吉田高校と向原高校の生徒を集めて、もしくはオンラインでという形で、安芸高田
市出身の先輩とお話ができる環境を作るとか。結構高校の同級生とか広島市でミシュランの星をと
ってシェフをしている人が向原からも2-3人くらい出ているはず。

僕が高校に行っていたときには、向原高校からメリルリンチに入られた方とか、あとは、東京大学
に行かれて今は厚生労働省とか結構おられると思う。

そういった方に、アポを取って「今こういった生き方があるよ」とかも1つの方向性としてあると
思う。

こういった会議を、コンソーシアムを形成した上で、今僕で言うと農業で、無印・JAXAさんに声を
かけていただいている経緯があるが、そういった形で、高校生と、地域、あとは企業さんとが絡ん
で、プロジェクトを進めていくっていうのも1つの手段。

JAXAさんはやっぱり、いろんな情報が欲しいから、情報を得るために、そこには多分協力的にして
いただけたと思う。

今、ちょっと僕がお話いただいているのは、呉出身でJAXAに勤められていて、広島を何とかしたい
と思われている方。そういった形で高校とJAXAが関わってみたら面白いかも。

そこでJAXAに行きたいとか勤めたいっていうのが出てくるかも。とすると、またちょっと方向性ど
か変わってくる。

上水流委員長

そういう向原高校・吉田高校が連携して、オンラインでつなげたり、どっちかには直接来てもらっ
てもいいし、そういうような授業をやってみるとのこと。

福岡委員

加計高校の芸北分校に、何回か行ったことがある。そこで夢の話で思い出したのが、キャリア朝会
とか、キャリア授業なるものがあった。キャリア朝会の場合は、NPOがコーディネートを受託して
いる。毎週、全然違う職種の人が朝20分だけ、自分の仕事・生き方・価値観について話す。それに
ついて、生徒が、感想や質問を、朝会なのでそんなに時間がないので、その時間のうちに書きき
って、100枚ぐらいのペーパーが後で郵送されてきて、それに全部お返事を書くまでが私の仕事だ
った。結構大変だったけど、実に面白くて。こんなこと考えているのだから。どの生徒さんがヒット
するか分らないので、すごくヒットした子がすごい質問を書いたりする。

大きなプロジェクトではないけど、そういう出合いをふやすっていうのは、先生方だけじゃなく、
間に誰か1人入れば、できたりするかなと思う。

上水流委員長

初回は市長に話してもらいますか。

そういうような試みがある。それは毎朝やっているのか。

福岡委員

いや毎週。コロナでそんなにいっぱいできなくて、毎月ぐらいだったかもしれない。
これは一応生徒会が主催、生徒会が NPO にリクエストして、NPO が連絡して、その人を連れてくる。

上水流委員長

学生が主体的に選んでくる。それはおもしろい。
8時30分前になってきたが、いかがか。
もう少ししゃべりたい人がいらっしゃったら、なければちょっと一旦取りまとめをして、次回につなげていきたいなと思う。

福岡委員

すごく細かいアイデアだが、「高校生を応援したい人軍団」というのは、安芸高田でも形成できる気がしていて、何かこういう高校生をいつでもオファーがあれば、夢を応援するなり、キャリアについて話すなり、いつでも力になるよっていうコミュニティーがあれば、頼みやすくなるパイプができたらいいのと思う。

本多委員

PTA とかと連携してもいいと思う。
いろんな職種の保護者の方がおられると思うので、PTA とすれば、学校・生徒さんを応援するっていうような立場の方。そして、地域におられる方が大多数だと思う。そういった方と、私たちのようなメンバーで、ちょっと、何かまた形を作っていければ、また、方向性としては変わっていくと思う。

中間委員

向原町の地域の方といろいろ話をさせてもらう中で、高校生と一緒に何かやりたいという方が非常に多いと感じる。今日もちょうど、高校生と一緒に、プロジェクトで、くず米を使って、町の特産というか、そういうプロジェクトを考えているのだが、高校生と一緒にやって、いろんなアイデアをもらって、ビジネス全般について学べるようなプロジェクトをやりたいということで、今日学校に来ていただいて、生徒に対して話をしてもらって、希望する生徒はっていう形でやった。1例だが。

高校生と一緒にやりたいて言われる方が非常に多いなっていうのは、すごく感じる。
で、英語を使って何かをやりたいというようなことも言っていて、ありがたい限り。そういったものが、ちょっとずつ実現できるように、何とかコントロール・マネジメントしていかないといけないと感じる。地域の方の協力はすごく得られる地域柄。

上水流委員長

高校生に、「このプロジェクトに関わると、こういうことが学べるよ」っていうか、例えばさっき言った、マネジメントっていうのもおっしゃっていたが、「こういうスキルが学べる」とかっていう形で、高校生自体がそこを使って、単なる労力じゃなくて、自分の夢を叶えるステップアップに使える場所としながら、巻き込めていけたらいいなというふうに思う。
そこがさっき言ったフィールドにしていくってことだと僕は思ってる。そういうことができればいいなと思う。

協議のまとめ

①公共交通機関について

- ・協議会の方から、市役所等々に働きかけていく。
- ・何か良い交通のアイデア、待つ場所を作るということも含めて検討できないか。
- ・市の北部（高宮・美土里）の通学手段
- ・現在は保護者送迎が多い→保護者の負担緩和

②他校との交流

- ・コロナで十分実施できていないということから、コロナが解消できれば違った形にもなるかも。
- ・現時点では、コロナの様子見。両校で交流事業を進める際は、学校がやっていくことを支援することを視野に入れる。
- ・地元高校への進学を増やすためにも、小・中学校との交流を通年で検討

③夢を応援するプロジェクト

- ・外部講師（安芸高田市市内でも可）を頻繁に招き、両校の生徒に話しができるような場所を作る。
- 夢をどう描いたらいいか、どう進めればかなえられるか見えてくるような話をしてもらおう
→高校の先生にやってもらうのではなくコーディネーターする人が必要。学校と外を結ぶ人を考えてみてはどうか。

④地域との結びつき

- ・生徒たちが夢を叶えるために、地域を絡めたフィールドワークとして結びつける
- 学校の先生にやってもらうのは結構シビア。コーディネーターする人を付けた上で、生徒がしたいような体験・実験を、地域を活用してできないのか。

その他

- ・尖った取組をしたい
 - ・留学希望のある生徒へ、人材紹介・留学先の紹介等を行う
 - ・夢を叶える、夢をもつということに対しての数字が改善される（アンケート）
- 学校で、自分のしたいことが見つかる・どう生きていけばいいかわかることは大切
- ・授業の充実（アンケート）
- やりたいことと授業がマッチングしていないのではないか
→自分のしたいことなどが見えてくると、授業の充実についても、学生なりに何か主体的に見えてくる。もうちょっとこういうことを学びたいとか。
→教師の態度が悪いからなのか、自分の夢と違うからなのか、学生がなにをしたいのか、どういうことをしたいのかというデータをクリアにすることが必要。

上水流委員長

他にご意見等はあるか

佐田尾委員

先ほどの安芸高田市の交通の見直しについて。これはJRの動向と関係するんじゃないかと思う。そうすると、JRの出方が、常にどうかということによって、通学の支援とか、その辺は大きく左右されるんじゃないかと思う。
今年度まとめるわけか。

JR の出方と地元の対応がそれぞれ温度差が出てきている。沿線地域だが。そこをどうまとめるのか。

猪掛委員

JR について、今いろんな再編の声もあるが、それはそれとして、全体、安芸高田市の交通の同線、そういったものがどうあるべきというところの見直しになる。そういった計画に基づいて、実際にそれを変えていくのが、今年全部変えるわけではない。そういった理想的なものに近づけていく。特に JR にしても、路線バス・高速バス、54 号線のバス、そういった広域をするものについては、直接うちが関与できないところがある。そこは、そこそこの業者の意見とか、働きかけをしながら、中の高宮と吉田を結ぶ方法だったり、向原と吉田を結ぶ方法だったり、そういったものが、今、なかなか機能的になってない。効率的でもない。そここのところは考えていかなきゃいけないだろうと思う。

佐田尾委員

具体的に、フィーダー線のような JR の駅からさらに枝分かれしていくような、ゾーンバスのようなものか。

猪掛委員

そうですね。

そっちの方がまずは、うちが手をつけていかないといけないと思う。お助けバス・お助けワゴンというような市が運営しているような交通がある。そこらは、細かく、方法を変えていかなきゃならないかなというふうに思っている。

佐田尾委員

特には、高校生の通学ということも加味するわけか。

猪掛部長

加味していきたい。

実際こういう大きな課題ですので、そこらをやっぱりちょっと、形態として合わせるべきだろうと思う。

久保委員

2 点ほど。

1 点は、先ほどまとめてくださった中で、外部人材の活用を通して、学校との間に立ってもらったかどうかということ。吉田高校は兼ねてから安芸高田市、それこそ地方創生推進課と連携を測って、そちらでいろんなこと・いろんな人を教えて頂いている。もうやっているところがある。ある程度は、市役所の方に情報があり、ノウハウもあるのかなと思う。

あと、アンケートについて、これは、校内の教員程度に還元していいのか。辛辣なものも書いてあるわけだが。目的外使用になるか。学校の運営改善という広義で言えば、活用させてもらってもいいだろうと思いつつながら、生徒が意図していなかったかなと思いつつながら、校長がまとめる形で、職員に伝達する方法が無難かと思う。

上水流委員

理想的だと思う。私自身は、高校を魅力化するためのアンケートなので、先生で共有するのは問題ないと思う。氏名が書いているわけでもない。もしかすると、先生は予想がつくかもしれないが。その辺が高校生に、「こんなアンケート答えただろう」みたいな風にしないような形ならいいと思う。

久保委員

両校それぞれね。

上水流委員長

ちょっと今校長先生からご意見があってありがたいが、次回の会議の時に、今我々が出したアイデアについてどう思うかっていうことを聞きたい。

あと、授業改善ということについて、何かここがポイントなのかっていう。ちょっと抽象的な話なので、もしこの議論で手がかりになるようなお話が、高校の先生から聞けるようであれば、情報を出していただくとありがたいなというふうに思う。

このアンケート結果についても、もしかしたら学校の先生たちの現場で見れば、こういうことじゃないかっていうもう少し確かな分析も行われるかもしれない。そういうことも、今度の会議に持ち寄っていただければ、より一層、どういうことをしたいのかってことが定められると思う。この結果に対しては、協議会として、すべては答えられないが、問題があったことに対しては、どういう風に考えているというのは出していきたい。

私が前回言った女性に特化したアントレプレナーシップ教育とかまだ諦めていない。やってくださいということではないが。

いろんな議論を活性化するために、いろんなアイデアを皆さんから、例えばこういうことをやってもらっているんじゃないかと。それを高校の先生の中で、これは面白いアイデアだなと思うことがあれば、それを考えていただくことであって、ここは高校に強制する場ではない。何かしら考えられて、安芸高田市が、資金的な部分で支援ができれば一番いいのかなというふうに思っている。

あとは本当にいろんなところでもう少し、例えば中学校の方に積極的に広報のアピールをすとかのアイデアをいただいた。そこは学生に来てもらう非常に基本的なところの取組だと思う。そういうことも今回のデータで見えてきたので、そこも取り入れていきながらできればいいと思う。

以上で、まずは、このアンケートに関するアイデアについての議論はここまでしたいと思う。よろしいか。

続いてですね、次回の日程についてということで、今回ちょっと決まるのが大変だということで、非常にちょっと事務局苦勞をされましたんで、少し調整ができればと思っております。

これは事務局の方から、よろしいか。

(3) 次回以降の会議日程について

事務局

資料4の方に日程調整表っていうのを入れさせてもらっている。10月・12月・3月で会議を開催するカレンダーを作らせてもらっている。

数字の下の方とかに、ここには絶対に参加ができないっていう日に、バツとか入れてもらえたらありがたい。それを参考にまたスケジュール調整させてもらって、次の会議日程を決めさせてもらえればと思う。今調整が難しい方はまたデータとかを送らせてもらうのでそれで返信してもらえればと思う。

上水流委員長

分かっている限りで。もし仮に返すとした場合に、いつぐらいまでに返したらいいか。

事務局

9月の、10から15の間。できるだけ早く、10までに返していただけたらありがたい。

上水流委員長

私が決めましょうか。

9月5日までで、早く決めないとどんどんスケジュールが入ってくる。9月5日までには返すようにお願いします。

それでは、ありがとうございました。

以上で今日の議題はすべて終わり。また次回の会議と思っている。それで、1件だけ、可能かどうかお伺いしたいことがある。

高校生と話をすることは可能性としてはありか。この会議みたいなところで、高校生に何か話を聞くっていうのは可能か。可能じゃないなら可能じゃないでいい。

久保校長

可能です。

中間委員

個人的には、ぜひお願いしたい。

上水流委員長

わかりました。

また高校生の声を聞きながら、検討できればいいのかなと思う。

高校生が来て、自分たちのことを一生懸命考えているんだなと思ってもらえるってことは大切じゃないかなと思う。それでまた高校生からの意見がちょうだいできれば、それはそれでありがたいかなと思う。

そういうことも視野に入れながら、検討を事務局にさせていただいて、可能かどうかっていうことも含めて、できればと思う。

事務局の方にお返しする。

事務局

はい。

ありがとうございます。

先ほどのスケジュールの件、次回会議は、10月に開催をさせていただきたいと思う。

本日ご協議いただいた内容、議事録をまとめさせていただき、委員の皆様にもお伝えをさせていただきます。また、日程は早めにお伝えをさせていただきたいと思う。

皆さんの方からこの場せつかくの機会ですので、情報の提供であつたり共有であつたりという、お時間もう少しあってもいいかなと思うが、いかがか。

少し私の方から、久保校長先生からいただいたこの資料、紹介させていただけたらと思う。

実は、安芸高田市のふるさと納税の返礼品に吉田高校のアグリビジネス課が作ったブドウを登録して、今、大募集中というところ。限定30組、今、募集をかけており、申し込みが達し次第、締め切りとさせてもらっている。

この取り組みも、高校と地域の連携、そして、このふるさと納税の寄附金は高校の応援の取り組みに使わせていただこうという形で今年度、資金的にはスタートしている。少しでも多く、このブドウを皮切りに吉田高校と安芸高田の道の駅との取り組みである梨サイダー、現在制作中のブドウジュースであつたりとかも、今後そういう展開につなげていけたらなあということだと思っている。

安芸高田市外の方であればどなたでもお申し込みをいただける内容となっている。委員の皆さんでもかまわない、お知り合いの方で、吉田高校OBの方、また応援してみようじゃないかという方がおられましたら声掛けをいただけたら非常にありがたい。

どうぞよろしくお願いたします。

久保委員

市役所の人と言うとやっぱり納税の宣伝みたい。

生徒たちが本当に丹精込めて、作っているブドウ。デラウェアという小粒のものから、大粒のシャインマスカットであるとか、ピオーネとかある。

実はちょうど1ヶ月前に7月末から8月お盆までの風物として、安芸高田市に広がっていくデラウェアだが、鹿に全部食べられた。

デラウェアは、単価が安いのであまりバリアをしていなかった。ちょっと甘かったところもあった。お盆の前にお買い求めいただいている、地域の方にはすごく迷惑をかけた。鹿が立って食べ散らかして。今年は獣害がひどい。

今、この大粒っていうのはちょうど出始めてる時期。ものすごい完全防備をしている。ですけども、今年本当にいろんな果物が甘いと言われているが、本校のブドウもとても甘くできている。上々。食われないようななんとか維持したい。

このことを、声かけてくださったのも、地方創生から「こういうことやってみませんか」と。

で、ぶっちゃけ、去年のこの時期までは「何かしましよよ」という声かけがすごく多かった。地域の方や市役所が、学校の校長室を訪ねて「何かしましよよ」という声。今、いろいろ具体的になりつつあるなと思っていて、ジュースのこともそう、その辺のこともそう。

学校のことをご理解いただいて、学校ができ得ること、範囲を見極めていただいて、地域の方は考えて持ち込んでくださっている。かなり実現可能そして持続可能な方法がとれているのかなと思っている。

生徒にとって言えば、今まで道の駅・安芸高田市内でしか流通できなかったものがこうやって、市外にどんどん出ていく可能性があって、誰に届くか分からないが、広がり感、そしてOB・OGに連絡すれば、歴史的な繋がりもできていくということの広がり感があると思う。

今回はお届けする箱の中に、はがきを入れて、ちゃんと意見をもらって、見直していこうという活動にしたい。

ぜひ皆さん、1万3000円するが。

でも、ブドウは1房、ここの町で買ったら1000円だけど、三越や福屋の地下で買うと4000円。4000円のシャインマスカットとピオーネ、これ2房ついてくる。

よろしく願います。

事務局

ありがとうございます。

これで本日の会議を終わらせていただきたいと思います。どうも皆さんありがとうございました。